

新病院整備の検討について

今後の対応方針

平成 24 年 12 月 18 日開催の野洲市議会都市基盤整備特別委員会において、新病院整備に関して市が提案した「野洲市中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（素案）」について、採決の結果、賛成多数で承認されました。

一方、新病院整備に関しては、昨年から、検討委員会や市議会特別委員会さらには市民懇談会などの場で十分な調査、検討と議論を尽くして来ていただいたにもかかわらず、採決において市議会特別委員会全 19 名の委員うち 7 名の反対があったことを重く受け止めています。

新病院の整備は、市民の受益が大きい反面、多大な財政負担が伴い野洲市の将来に大きく影響する課題のひとつです。今後、新病院整備の可能性の検討を引き続き進めていくには、市民の総意を得る前提として、市議会の大多数の力強い賛同が得られることが欠かせないと考えています。

これまでの間、検討に当たっては、市民をはじめ専門家、医療関係者等の多大なご協力をいただき、あわせてご期待もいただいています。しかし、今後の新しい行財政プランの策定過程で財政見通しを一層明らかにすること、また市民の皆さんに医療サービスの現状とあり方に一層のご理解をいただくなどの当分の間、新病院整備の可否を含め、検討を凍結したほうが望ましいと判断しました。

なお、現在並行して野洲駅南口周辺整備構想の検討を進めています。この検討においては、健康をテーマとして、駅前の魅力ある機能のひとつとして医療機能を含めての検討は継続します。

市の提案

「野洲市中核的医療拠点のあり方に対する基本方針（素案）」参照

経緯

〈市民代表、専門家等による検討委員会〉

- 昨年 4 月に野洲病院から「新病院基本構想 2010」の提案があったことを受けて、野洲市内の医療サービス提供のあり方について検討してきた。
- 昨年度、市民と医師会代表や大学病院の専門家等で構成された「野洲市地域医療における中核的医療機関のあり方検討委員会」から「市内に一定の役割を担う病院は必要」と提言を受ける。
- 今年 2 月からは、専門家による「野洲市新病院整備可能性検討委員会」で検討。一定の前提条件と課題を示した上で、「市が新病院を整備し、持続可能な運営ができる可能性はある」と提言を受ける。

《都市基盤整備特別委員会》

- これらの提言を尊重しつつ、前提条件等の課題整理を行い、野洲市民が安心して生活していくために、市内に中核的医療拠点としての役割を果たす病院が必要かどうかについての審議を経て、去る12月10日の都市基盤整備特別委員会で「中核的医療拠点のあり方に関する基本方針（素案）」を提案した。
- 12月10日の委員会では採決に至らず、改めて18日の委員会で審議の上、市提案の「素案」を「案」として熟度を高め、今後市民に説明を進めることへの採決が取られた。委員長を除き全19名の委員うち12名が賛成、7名が反対。
- 委員会の審議を通じて出された主な反対意見
 - ・ 市内に病院がなくても、周辺病院で医療サービスを確保することができる
 - ・ 病院の黒字運営を確約しなければ、市が病院を持つことを認められない
 - ・ 民間病院並に安く材料等が購入できることを確約できないか
 - ・ 大学病院の附属病院とできないか
 - ・ 市の中期財政見通しでは財源不足が生じるとされる中で新たな借金をするべきではない